

The Island of Mantas.

今まで様々な海でマンタを取材してきた。

しかし、これほど高確率で、マンタに会えたのはヤップが初めての事だ。

今回、マンタ狙いのダイビングでの遭遇率は100%。

人気ディスティネーション、パラオの影に隠れているためか、メジャーに成りきれないヤップ。

しかし、この海、実はかなりのポテンシャルを秘めているようだ。

そして素朴で伝統的文化を重んじる島民性も、この島の大きな魅力になっている。

自分自身、何度もリピートしたい海候補上位に躍り出たヤップ。その魅力に迫る。

(取材:2005年9月)

頭上に覆いかぶさるようにホバリングを
続けていたマンタの出現には驚いた

ヤップ

マンタの生きる島



Photo&Text **Takaji Ochi**

Special thanks **Yap RiZE Diving Center , World Tour Planners**

www.web-lue.com



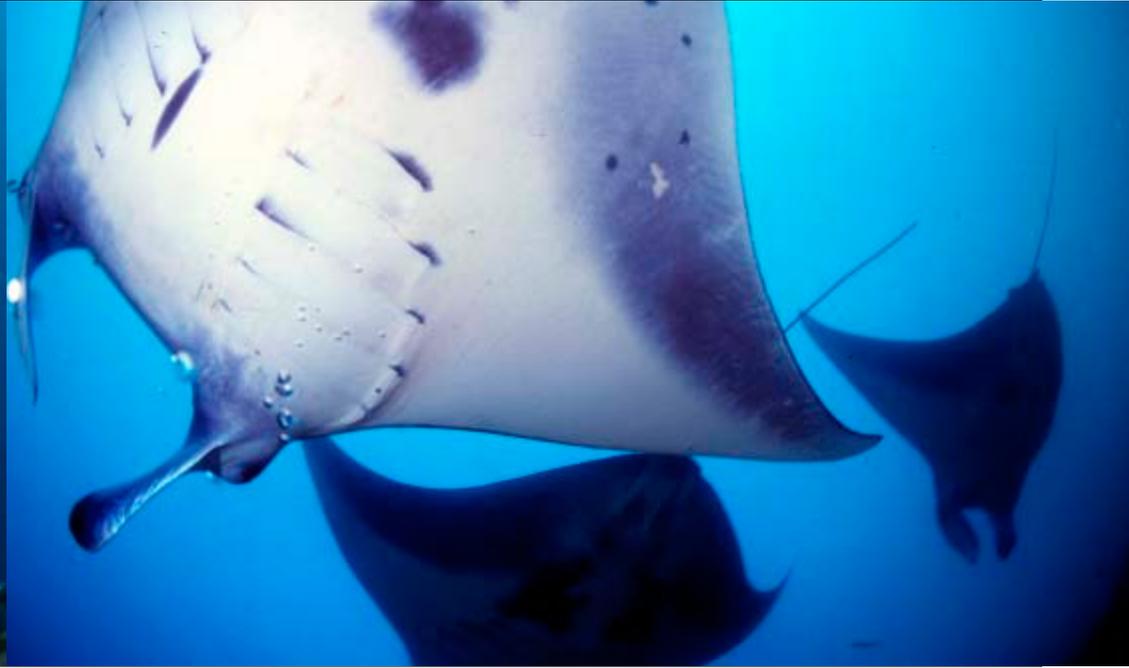
Information Link

<http://www.wtp.co.jp/>

←click! 情報HPへジャンプ

Web-lue 2005. Autumn

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



世界有数の マンタ遭遇確率

突然、頭上が暗くなる。太陽が雲によって遮られたのかと思って、ふと上を見上げると、頭上には数枚のマンタが浮遊していた。しかも手が届くほどの距離。自分自身がそのままマンタの大風呂敷のような身体に包まれてしまいそうなくらい近い。「い、いつの間に!」。それほど、彼らの出現は突然の事だった。不意をつかれた状況に、一瞬たじろぐのだが、クリーニングステーションの上でホバリングを続ける彼らを無理に追いかける必要が無い事は、穏やかな動きから一目瞭然だった。僕らは、流れの下手にある岩につかまって、静かに彼らを眺めたり、ゆっくりと接近して撮影したりしていた。

しばらくすると、ガイドの大介君が、1匹のマンタに向かって、何かを求めようと手を差し出していた。すると、マンタが少しずつ差し出された手に吸い寄せら

れるかのように接近してきたのだ。まるで芸を仕込まれた猿のような行動に、「一応、魚類だよな」と多少の違和感を感じながらも、感心してしまった。

「今日は、ペガサスとナナマンタ、それにあの大きいのは多分スズキですね。1年くらい見てなかったから、死んだのかと思ってましたよ」。ダイビングを終えてボートに戻った大介君が教えてくれた。「皆名前ついでるんだ。何匹くらいに名前付けてるの?」という問いに、56匹に名前をつけているという答えが返ってきた。まあ、一度に30匹くらい見る事もあるらしいから、それくらいいてもおかしくは無い。それに「ヤップで見れるマンタが、パラオで目撃された事もあります」ということなので、マンタは意外に広範囲を回遊しているのだろう。モルジブでも、雨期には北マーレ環礁、乾期にはアリ環礁と出現する環礁が違うことが確認

されている。

ヤップでマンタが見られるポイントは、島を取り囲む環礁に12あるチャンネルの中でも、北側に位置するミルズチャンネルとゴフヌチャンネル。シーズンによって、風の吹く方向の違いで、このどちらかにマンタが集まってクリーニングや捕食、交尾シーンなどを見せてくれる。5月から11月までが、環礁北東側のゴフヌチャンネル、11月から5月までが、北西側のミルズチャンネル。だから、ヤップでは1年中マンタが見られるというわけだ。

それにしてもヤップでのマンタ遭遇率は、どのディステーションと比較しても群を抜いていると感じた。僕が訪れた9月は、決してベストシーズンとは言えないのに、5回程潜った、マンタ狙いのダイビングでは遭遇率100%を記録した。



サービスからゴフヌチャンネルまでの浅いリーフも美しい

ヤップ・マンタの生きる島
The Island of Mantas.

Web-lue 2005, Autumn

 **Information Link**  情報HPへジャンプ
<http://www.wtp.co.jp/renewal/yap/index.htm>

30匹ものマンタが 乱舞する交尾シーン



(左上)潜るダイバーの数も少ないから、撮影のために接近する距離も近い (上右)ライズダイビングセンター前のビーチは遠浅になっている (左)それぞれの個体には、ニックネームが付けられている



ヤップの中心地、コロニアルにある他のダイビングサービスからだ、状況によっては、マンタの見れるチャンネルまで1時間以上かかってしまうのに、今回取材に訪れた、ヤップライズダイビングセンターからだ、ゴフヌチャンネルで、ゆっくりボートを走らせて10分。早ければ5分、ミルチャンネルで20分もあれば到着してしまうのだ。マンタを見せるには、潮の流れを読む事が重要になってくる。だから時には、朝7時前エントリーなんて事もあるわけだから、それは少しでも近い方が楽し、他のサービスよりも早くにエントリーすることができるのは嬉しい。

自分にしてみれば、マンタは案外見なれた生物だけど、被写体としては、ジンベエよりも魅力的だ。これほど高確率でマンタに会えるのであれば、バハマのイルカや、トンガのクジラ、マーシャルのサンゴのように、一つのテーマとして訪れてみるのも悪くは無いと思った。なんせ、マンタダイブの方が、普通のダイビングより料金が安く設定されているくらいなのだから。

「ヤップのマンタにローシーズンは無い」と断言されたので、「じゃあ、しいてベストシーズンをあげるとすれば」と問うと、2月にはマンタの交尾シーンが見られるし、見るのは難しいが、5月にはマンタの出産が環礁内で行われるそうだ。しかも、交尾をしながら水面にジャンプすることもあるそうだ。簡単に撮影できるものではないらしいが、潜らずに、ボート上でその瞬間を狙ってみようかとも思った。

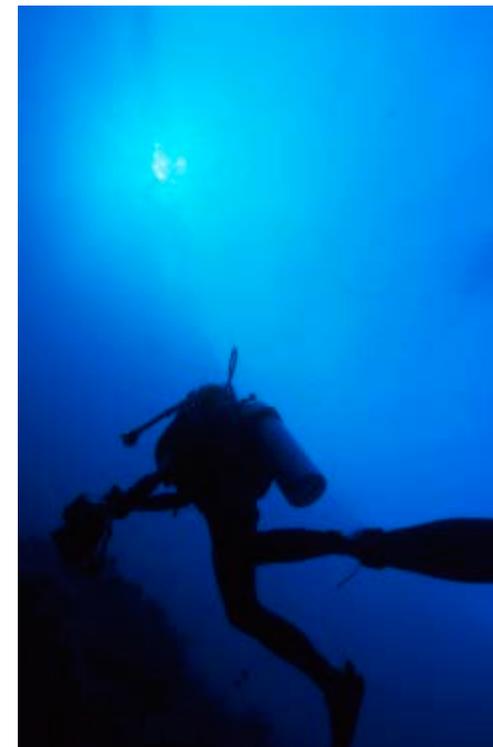
マンタの乱舞、乱舞、乱舞。今回、多い時には8匹のマンタが1ダイブで見られていた



マンタリッジに群れているインドオキアンの群れ



(左上)チャネルの海底で休息するエイやサメたちも翌日撃する (中)外洋に出ると、ハシナガイルカたちが出迎えてくれる (右)こちらは同じマンタリッジのギンガメアジの群れ



外洋のポイントは抜けるような透明度

群れやマクロも充実

マンタの事ばかり書いているが、他にも様々な生物に遭遇した。特にミルチャネルにあるマンタリッジというポイントでは、グレーリーフやホワイトチップなどのサメがクリーニングにやってくるし、壁のようなギンガメアジやインドオキアジノ大群は圧巻だった。しかし、このポイント、アウトの流れが激流になると、渦を巻くほどになるため、カレントに持っていかれないように注意しなければならない。今回も激しく環礁の外に向かって流れ出る様を何度となく見させてもらった。安全面、透明度の事も考えると、インの時に潜るのが望ましい。

ヤップ・マンタの生きる島
The Island of Mantas.

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/yap/index.htm> click! 情報HPへジャンプ



(上左)タテジマキンチャクダイの数も多い (上右)マンジュウイシモチはブルーホールで簡単に見る事ができる (下左)サンゴの上に乗ってぼ～っとしているキイロサンゴハゼ (下右)マングローブが多いからか、ニシキテグリなどのマクロも充実している

オリジナルポイントの数も多い

ヤップ最北端、ルムンコーナーは、ライズのオリジナルポイント。島民との交流を大切にしているため、他サービスが許可をもらえていない多くのポイントで潜る事ができるのだそうだ。ここでも頻繁にグレーリーフやホワイトチップを目にした。最近では、サメがやたら多くなったとか。グレーリーフ、ホワイトチップ、ブラックチップ、シルキー、タイガーなどなど。しかも以前より接近してくる距離が近くなったそうだ。そんな話を聞いてしまったからか、外洋でサメが近付いてくると、ちょっと緊張していた。今回は、エキジット直前にイソマグロの群れに遭遇し、興奮しながら撮影したのだが、エアも残り少なく、満足の行く撮影はできなかった。

マングローブ林の多いヤップ。こういう環境が、様々

なマクロ生物の生活環境に適しているの是一目瞭然。人気のマンジュウイシモチやニシキテグリ、ギンガハゼなど、おそらく生物層はパラオに似ているものが多いようだ。大介君、僕同様、あまりマクロは得意では無いので、今回はあまりマクロ撮影には時間をかけなかったが、次回はもう少しじっくり撮影を行ってみたい。



キャンディーケイトドワーフ
ゴリーなどへのニハセも多
そうだ

ヤップ・マンタの生きる島
The Island of Mantas.

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/yap/index.htm> 情報HPへジャンプ

ストーンマネーと ストーンパス



(左)日本の石畳をイメージさせてくれる、ストーンパス
(下)男性用集会所のメンスハウスは村ごとにある



高台からヤップの美しいリーフを見渡すことができる



ストーンマネーの製造現場。ストーンマネーはヤップの通貨で、ヤップの島民が製造している。



ストーンパスの途中でヤシのカゴ作りを始めた子供たち

ヤップと言えば、巨大なストーンマネーが有名だ。現在でも土地の売買などで実際に使用されているという。今でも島の至るところで、目にすることができる。村やコミュニティごとに保管しておくスペースとして、ストーンマネーバンクというものもある。

ストーンマネーは大きい程貨幣価値が高いというわけでは無いらしい。もともとこの石はヤップから500kmも離れたパラオから切り出して来たのだが、海を越えて運んで来るときに、何人の人間が命を落としたかで、貨幣価値が決まるそうだ。つまり小さくても、多くの人が命を落としていれば、それだけ価値が上がるといわけだ。

現在でもこのストーンマネーは土地の売買や、結婚式の結納品のようなものとして、ちゃんと利用されているとか。今では、切り出しを行っていないが、現在ヤップにあるストーンマネーは、海外持ち出し禁止で、しっかり保管記録があるとか。

太平洋戦争前までは1万3000個程のストーンマネーが存在したが、日本軍が軍用道路建設のためにストーンマネーを破壊して利用したため、現在残っている数は約2000から3000ということだった。しかし、あまり働かないヤップの男たちが、何故にこんな苦勞をしてまで石貨を運ぶ気になったのかは疑問だ。

ストーンマネーの影に隠れて、メジャーでは無いが、ヤップにはストーンパス、その名の通り、石を敷き詰めた小道が島のあちこちに存在する。その雰囲気は日本の古い神社の敷石にも似ていて、なんだか懐かしい気分させてくれる。

ヤップ・マンタの生きる島
The Island of Mantas.

 **Information Link**  情報HPへジャンプ
<http://www.wtp.co.jp/renewal/yap/index.htm>



(左)足を起点に編んだ草に、器用に花をくっつけていく
(上)手作りのヤシのカゴに採れたのミカンを入れる女の子



この子供たちもマントア島のスタッフだ



(上)子供たちが摘んできた花や草で、花輪作りを始めた
(右)完成したムームーを頭に、笑顔を見せる



人口30人の村にあるダイビングリゾート

ライズがあるのは、ヤップの中心地、コロニアルから北に車で20分ほど移動した、マープ島東岸のワチュラブという小さな村の中にある。村民はなんとたったの30人。村民との垣根の無い交流が印象的で、なんとなくコミュニティという表現がしっくりくる。村民やその子供たちまでがスタッフとして働いてくれているというのは、見ていて微笑ましい。彼女たちとの交流は、きっとゲストにとっては何物にもかえがたい、良い思い出になるだろう。

特に子供たちと一緒にいったワチュラブ村にあるストーンパスでは、自生のパッションフルーツやオレンジを採ってきて、そのまま食べたり、レストランに持って帰ってジュースにして飲んだりした。手に持ちきれないくらい採ってしまったので、彼女たちは早速ヤシの葉で簡単にカゴを作ってしまった。教えてもらったのだが、案外複雑ですぐには覚えられなかったのを見て「駄目ね」と呆れられてしまった。



独特の歌声が印象的だったヤップダンス

ムームーはヤップの花輪。これを身に付けていると良い香りがするため、現地の人にとっては香水みたいなもので、男性が身に付けていても良いそうだ。これも子供たちに教えてもらえるのだが、これも面白かった。ダイビングとダイビングの合間に楽しめるから、一度体験してみると良い。まあ有料ではあるのだけだね。

「ダイビング取材に来て、こんなに地元の人とばかり話し込んでいるカメラマン見たこと無いですよ」と笑われた。気付いたら、毎日のようにビートルナッツをもらっていたし。そのおかげなのか知らないが、取材最終日の夜には、ヤップの酋長直々に、男性たちに呼びかけてヤップダンスを披露してくれた。焚火の前で全身汗だくになりながら男たちのかけ声が響く。ムームーダンスと言って、先祖の霊を呼び寄せるためのものだとも聞いた。「急な事だったから、ちゃんと練習できなかったけど」と酋長に言われたが、独特な歌声と、彼らの迫力に心奪われた。何よりも、最終日にそうやってダンスを披露してくれたことに感動した。

ヤップ・マンタの生きる島
The Island of Mantas.

Web-lue 2005. Autumn

Information Link <http://www.wtp.co.jp/renewal/yap/index.htm> 情報HPへジャンプ

そぼろと目玉焼きの入ったキアイブレートは、人気メニューの一つ、パパイアのサラダも美味しい

自生、または栽培している野菜をちょこちょこ探ってきてもらったら、こんなに集まってしまった

見るからにヘルシーな、エイジアンチキンサラダ

ダイビングサービスやレストランのすぐ裏手の畑で食べるだけの野菜を収穫する



採れたての生ハーブの入った、ハーブティーの香りがダイビングの疲れを癒してくれる▲

目指すは マクロバイオティック

「まさかミクロネシアにダイビングに来て、こんなに美味しい食事がありつけるとは思わなかった」。ムーンライズカフェで出された食事には、実は毎日のようにマンタを見せてもらった以上に感動した。レストランのメニューにはハーブなどがふんだんに利用されていて、どの料理もとてもヘルシーな感じで美味しい。ここで出される食材のほとんどがオーガニック。自生のものか、自分たちで自家製栽培しているのだ。ショップとレストランの裏手には、多くの野菜が植えられている畑がある。「食材を手に入れるのが難しいから」というのもあるのだが、シェフをやっているヨシ君の食に対するこだわりも大きい。

畑には、ホウレンソウ、カボチャ、サツマイモ、オクラ、クーシンサイ、ヒマワリ、ナス、ピーマン、バジル、シナモン、パパイア、ギンガン、バナナ、ゴーヤ、ノニ、ココナッツ、エダマメ、スネークピーンズ、オレガノ、ダイコン、タロイモ、ヤムイモ、タピオカなどなど。鬱蒼としたジャングルの際にあるからか、一見、自生しているようにしか見えないのだが(実際自生しているものもあるけど)、「これを作るのは大変だったんですよ。(新

芽を食べちゃう)鶏と格闘しながら作りましたよ」と大介君は自慢気に語ってくれた。まあ、そうは言っても、自分で作ったんじゃないんだろうけど。

ヨシ君は、「医食同源」という言葉を口にした。現代病と言われるアトピーやぜんそくなどは、欧米から入ってきたジャンクフードなどを食べる事が一因と考えられている。「マクロバイオティックってご存じですか?アメリカで始まったんですけど、古い時代には、人間がヒエヤアワを食していた時代があって、穀物や肉などを食べるよりもさらに長い歴史があるんです。植物から主要なタンパク質を摂取していた時代。自然のあるがままのもの、そういう無理の無い食生活をする事をマクロバイオティックといいます。そんな食生活を送る事で、現代病は直るんですよ。完全なマクロでは無いですけど、僕が目指しているのはそんな食生活です。見える食生活っていうのかな。」

ヤップでこんな話を聞くととは思わなかったのだが、彼が作ってくれる料理を食べていると、なんだかめっちゃくちゃ健康になっていくような気がする。だからと言って、肉類が無いわけではなく、角煮や照焼きチ

キンなど、とにかく日本人には嬉しい、美味しいメニューが多い。採りたての新鮮なハーブで作ったハーブティーの香りも、ダイビング後の疲れを癒してくれた。

「自分の食べたいものを、畑から自分で食べる量だけ摘んで来てもらって、それを料理するって企画なんかも考えているんですよ」と話す。何にも無い島でも、彼らの若くて新鮮な頭の中からは、様々なアイデアが溢れ出て来るようだ。彼らの話を聞いてるだけで面白い。ここでの生活を心から楽しんでいるように感じた。

ただし、彼、朝はとても弱くて、11時くらいにならないとまともに起きて来ない。万が一起きていたとしても、昼から夜にかけての愛想の良さとはまるで別人のよう。村の子供たちからも、「朝のヨシは怖い」と避けられる程の無愛想さだ。(これは朝食は期待しない方が良いのかな)とちょっと不安になったが、初日の朝食はちゃんと作ってくれた。



(右)ハーブの種類も豊富だ(下)ムーンライズカフェで談笑するスタッフ3人





(上)ヤシの葉でのカバン作りに悪戦苦闘、でも面白い
(右)アフリカンドラムを楽しそうにたたく、シェフのヨシ君



(上)完成したヤシカバンを手にご満悦の3人
(左)子供たちとワチュラブ村内を観光する事も可能だ
(中)隣村観光では、珍しそうに子供たちが集まってきた

ヤップライズInformation
ヤップにあるダイビングサービスの中でも、マンタの出るチャネルに最も近くて、マンタダイビングに力を入れている。食にこだわるムーンライズカフェやヤップ唯一のビーチフロント、ビレッジビューリゾートも併設されている

村人に受け入れられた3人の若者

今までも、様々なダイビングディスティネーションで、大望を持って新たにサービスを立ち上げようとしている若者たちを取材してきた。お互いに試行錯誤しながらの取材は、安定した既存のサービスを取材するよりも、はるかに面白いものだ。自分の愛する海の魅力を、少しでも多くのダイバーに知ってもらいたいという強い思い、ひたむきさを側で感じているだけでも、「前向きに生きる」事へのエネルギーをもらっているような気分になれる。

もちろん、今回のヤップライズでの取材中も、例外ではなかった。陸の上ではまったくやる気を見せない紹見大介(ジョウミダイスケ)君。その時来ていたゲストの「石垣島とヤップだと、マンタの遭遇率はどちらが高いの？」という質問に「それはヤップですよ！」と案外ムキになって即答していたのを思い出す。絶対に全てのゲストにマンタを見せたいという気持ちは人一倍だ。陸の上ではただのやんちゃな悪ガキにしか見えないのだけど。

それに対して、彼の古くからの悪友(?)、レストランシェフの塩田義明(シオダヨシアキ)君の、美少年系の爽やかさは女性客に人気が出そう。実際にはそれなりの年齢で、大介君の方が年下なんだけど。二人の掛け合い漫才のような会話も面白い。まあ、そんな事よりも、彼の「食」に対するこだわりは、今後、ライズのキャラクターの中核を締める重要な要素になるだろう。

ガイドでもあるけど、ランドツアー担当のアンドレアは、以前ピースコープ(アメリカ版海外青年協力隊)としてヤップで学校の先生をしていたためか、村民との交流を大切に、ゲストに少しでもヤップの本来の文化に触れてもらいたいという思いがある。様々な村のチーフと交渉して、ビレッジツアーの企画をしたり、村の子供たちや女性たちを講師として、ヤシの葉のカゴ作りや、ムームーと呼ばれる花輪作り、現地語講習教室などのアイデアなども次々に考え出している。

Rize Main Point Guide



ミルチャネル

北東にある11月から5月にかけてのマンタポイント。2月には30匹もの編隊が姿を見せて、交尾を行うこともある。このシーズンはなぜか、インでもアウトカレントでも透明度が高い。クリーニングステーションは砂地で22m、岩場の方で28mと深め。

マンタリッジ

ミルチャネルの一部にある、群れ、大物ポイント。チャネルの途中が水深5mにまで浅くなり、潮の状況によっては、激流を作っている。その流れに乗って、ギンガマジ、インドオキアジ、マダラタルミなどの群れ、グレーリーフがクリーニングを行っていることも。

ゴフヌチャネル

北西にある5月～11月までのマンタポイント。ライズからの所要時間はたったの5分。今回は全てこのポ

イントでマンタを目撃した。水深12mにあるクリーニングステーションでは、10匹以上が一度に見れることもある。砂地にはホワイトチップ、外洋近くではバツファローフィッシュの群れやナポレオンがみられる。

ブルーホール

環礁内にあるマクロポイント。浅いリーフの中にぽっかりと掘られた巨大な穴のような地形。といっても深さは中央でも12mくらいしかない。マンジュウイシモイシやキヒロサンゴハゼなどのサンゴに生息するマクロ系の魚をのんびりと観察するのに適したポイント。5月頃にはマンタに姿を見かける事も、おそらく出産にきているのではと考えられている。ライズのオリジナルポイント。

ガボ

ゴフヌから北に向った外洋にあるポイント。透明度も高く、当たれば、マダラトビエイやギンガマジの群れなどが見れるが、外すと何も見えな。

ルムンコーナー

ヤップ外洋最北端のライズオリジナルポイント。急なドロップオフには、パープルビューティ、スミレナガハナダイ、パートレットアンティアスが群れ、時おりグレーリーフなどがダイバーの様子を見に接近してくる。ツムブリ、イノマダロなどの大型回遊魚やバツファローフィッシュの群れが見れる

Hotel



ビレッジビューリゾート

ワチュラブ村にある、ライズゲスト専用のコテージ。現在改装中で、10部屋の内3つだけが使用可能(2005年9月現在)。年内には全て完成の予定。ヤップでは唯一のビーチフロントリゾート。ダイビングサービスとレストランの目の前にあるので便利。静かな村の中での生活を満喫したい人にはお勧めだ。冷蔵庫、エアコン、ホットシャワー全室完備。

Hotel



ESAベイビューホテル

ヤップのビジネスホテル。部屋はクリーニングも行き届いており、快適に過ごせる。サービスもヤップにしたらまともでレストランもある。週末には現地人のお客さんも多く、親しまれている。パスウェーズホテルのレストラン、ブルーラダグーンスーパーも近く便利。満室の時も多いので、予約は早目に。

Hotel



オキーフウォーターフロント

2005年5月2日、コロニアル市内、湾の入り口のウォーターフロントにオープンした新しいホテル。内観はコロニアル調で一見とても古く見えるのもオーナーの趣向。現在は5部屋しかない部屋はこじんまりしていて、かわいらしいとも言えるが、荷物の多いダイバーにはちょっと狭いかも。ホテル向かいに2軒レストランもあり、ヤップの一番大きいスーパーYCAがすぐ隣。

Shop



トロピカルタッチハンディークラフト

ローカルの手ごろなハンディークラフトのおみやげ屋さん。パンダナスの葉で作ったタバコ入れと、サンダラスケースが\$2.50と安くお勧め。

Hotel



トレイダーズリッジ

ヤップの中心地であるコロニアルの見晴しの良い高台にある、ヤップ唯一の5つ星高級リゾート。プール、マッサージ等、贅沢な時間を過ごしたいお客様にお勧め。毎週、火曜日はピザナイトでライズのスタッフもよく愛用する程うまい。湾を見下ろす事のできる部屋は、広々として清潔で快適な空間を提してくる。室数は22で、全室にテレビ、DVD、冷蔵庫、ホットシャワー、ミニバー、エアコン等、全て完備。

Hotel



パスウェーズホテル

コロニアル市内の急斜面に立てられた、ローカル風コテージが南国情緒満点。ホテル内にレストランも完備。ローカル気分を味わいたいお客様へお勧め。エアコン、ホットシャワー完備。全8室。

Shop



ヤップアートギャラリー

ヤップで有望な若手芸術家を支援し、その芸術家たちの作品を販売しているお店。絵画と木彫りの彫刻が多い。ヤップの名物でもあるマンタをテーマにしたものが多い。

YAP- INFORMATION

州都はコロニア。ミクロネシアのヤップに行くには、グアムを経由することになる。伝統と昔ながらの生活習慣を重んじている。階級制度も存在し、酋長が大きな権限を持っている。注意点としては、無闇に写真を撮ったり、土地に入る事はマナーに反するので、常にスタッフに確認を取ってもらうようにした方がよい。